



## 入隊予定者を市長らが激励



自衛隊東京地方協力本部福生募集案内所（所長 武田一空尉）は2月12日、羽村市役所において入隊予定者激励会を実施した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止処置として、規模を縮小し、時間を短縮して実施し、並木羽村市長、副市長及び教育長が参加し、陸曹候補生として入隊する入隊予定者を激励した。

羽村市では、豊かな感性や情操を育み、生涯を通じて音楽に触れあうことを推進するため30年以上前から「音楽のあるまちづくり」に取り組んでいることもあり、陸上自衛隊音楽要員としての入隊予定者に対して「音楽活動を通じて羽村市をアピールして欲しい」とのリクエストもあった。

激励を受けた入隊予定者は、「訓練等についていけるか不安はあるが、音楽で国民を少しでも笑顔にできるようにになりたい」と入隊に向けて決意を語った。

福生募集案内所は、様々な制約を受けるコロナ禍においても創意工夫し、関係自治体との関係を更に発展させ、防衛省・自衛隊の活動について理解の深化を図れるよう、所員一丸となって任務に邁進していくとしている。

## 女子大オンライン説明会に参加

自衛隊東京地方協力本部台東出張所（所長 武下3陸佐《当時》）は2月12日、跡見学園女子大学で開催された「ATOMキーキャリアフォーラム」に参加した。

これは、在学生が今後のキャリアを考えるきっかけや気づきになるよう企画されたものであり、コロナ禍に鑑みZoomを使用したオンラインで開催され、自衛隊を含む13団体が参加した。

自衛隊からは、自衛隊の任務、国内又は国際情勢の変化に応じた多様化する役割や任務、幅広い職種、採用種目、キャリアパス、福利厚生等について説明するとともに、女子大生という特性から、ワークライフバランスと女性職員の活躍について紹介した。

参加者との質疑応答では、「まず体力ありきのイメージが変わった」「幅広い職種があるの面白そう」などの声が聞かれ、自衛隊について理解を深めた様子が見られた。

台東出張所はコロナ禍においても、対面式より気軽に参加できるオンラインの特性を踏まえて、今後も同様のイベントに積極的に参加し、防衛省・自衛隊の活動についてさらに理解を深められるよう所員一丸となって任務に邁進していくとしている。

